

九州Ｊリーグホームタウン連携会議 2015 活動方針

平成 27 年 4 月



おかげさまで、もっと、元気な九州へ。


九州JHT
九州Ｊリーグホームタウン連携会議



福岡市



北九州市



鳥栖市



諫早市



熊本市



大分市

目次

おかげさまで、もっと、元気な九州へ	2
九州JHTの概要	4
九州JHTがめざす将来の姿	5
活動展開	5
2015年活動内容	6
九州JリーグのPR	6
【取組1】メディア等での広報活動	
【取組2】各都市のイベント会場でのPR	
【取組3】各種公共施設等との連携事業	
九州Jリーグの試合に行く	7
【取組1】九州JHTブースの設置	
【取組2】スタジアムでの周辺イベントの実施	
【取組3】九州だJ！連携強化事業	
九州のJリーグの試合を楽しむ	8
【取組1】バトルオブ九州スタンプラリー	
【取組2】九州6クラブ観戦ガイドの作製・配布	
【取組3】九州Jクラブ順位予想だJ！	
【取組4】バトルオブ九州優勝クラブ表彰	
連携強化	9
【取組1】各都市間の情報共有・連携強化	
【取組2】Jクラブとの意見交換・連携強化	

おかげさまで、もっと、元気な九州へ

九州の人々の多くは、高校野球甲子園大会で九州勢を応援します。それは誰に教わった訳でもない自然な感覚。たぶんそこにあるのは「同じ九州だから、応援する」という、いたってシンプルな思いではないでしょうか。

しかし、不思議なことに「同じ九州だから、負けられない」という正反対の思いが存在することも確かです。

どちらにも共通するのが「同じ九州だから」という思い。普段は仲間でありながら、ある時には絶対に負けられない相手になる。どちらの場合にしても「九州男児」という言葉のイメージが物語るように、その思いには強い意志が存在します。あえて言うならば、九州人の熱い心が創り出す「九州気質」とでもいうものかもしれません。

2010年、そんな九州の地で5つのJクラブが同じJ2リーグで戦うことになりました。

こうなると、九州勢同士の対決に否が応でも騒ぎ出す九州気質。九州以外のクラブとの対戦時にはない「同じ九州だから、負けられない」という特別な思いがスタジアムとホームタウンに独特な高揚感をもたらします。

おらがまちのスタジアム。鮮やかな緑色のピッチで繰り広げられる戦いに一喜一憂しながら、世代や性別を超えた人々がそれぞれのホームタウンの名前を大声で叫び、意地とプライドを賭けてぶつかり合う。その様子は、まさに「バトルオブ九州」。そして、それはたぶん、とても幸せなこと。

九州JHTでは、この幸せをたくさんの人と分かち合うために、まずは九州のJリーグに興味を持ってもらい、スタジアムへ足を運んでもらい、観戦を楽しんでもらいたいと思っています。

なぜなら、おらがまちのクラブを応援することは、自分のまちを応援すること。スタジアムに響くたくさんの声援は、選手だけでなく、まち自体を元気にしてくれるものです。そんな「まち」が九州に6つもある。そんな6つのまちが協力すれば九州はもっと元気になる。そのように考えているからです。

そして、自分が住むまちに地域に根差したJクラブがあることで得られる喜びは、ゲームの勝ち負けだけでなく、他にもたくさんあります。

たとえば、クラブやスタジアムを中心に、選手やコーチ、スタッフが地域の人々と触れ合い、一緒になって体を動かすことで、より多くの人にスポーツに親んでもらう。子供たちだけでなく、お年寄りも、お父さんも、お母さんも。すべてのJクラブはそういった



ホームタウン活動に積極的に取り組んでいます。

そんな小さな喜びとホームゲーム(九州内ではアウェーゲームも)での興奮が相まって、家庭や学校、職場などで、この前の試合はどうだったとか、今日学校に選手が来て一緒にサッカーしたよとか、地域に暮らす人々の生活の中にクラブが少しずつ浸透していき、いつの間にかクラブがまちの象徴や誇りとなり、地域が元気になっていく。

Jクラブを通じて、そんな心の豊かさを育むまちづくりがきっとできるはず。そのために、ホームタウンはどのような役割を果たしていくべきか？これは、ほとんどのJリーグホームタウンに共通している課題です。

だからこそ、「同じ九州だから」の九州気質で5つのホームタウンが力を合わせて様々な活動に取り組み、サッカーやスポーツを通して、地域や世代を超えて人とひととがつながり、自分のまちを、ひいては九州を誇りに感じてもらおうと、2010年に「九州Jリーグホームタウン連携会議(九州JHT)」が生まれました。

3年間5都市で様々な活動に取り組んできましたが、2013年、新たにV・ファーレン長崎がJ2に昇格し九州で6番目のJクラブが誕生。九州JHTも諫早市を加えた6都市体制となり、九州のJリーグ熱がさらに高まることが期待できます。



九州JHTの目標は、1つのクラブ、1つのホームタウンだけで叶えられるものではないため「おかげさま」を理念としています。

1つのクラブ、1つのホームタウンだけでは難しいことも、6クラブ、6ホームタウンが協力すれば何とかなるような、風穴が開くようなことが、まだまだたくさんあるような気がしています。

Jクラブだけでなくホームタウンが、しかも同時に6つもの都市による共働の取り組みは全国的にもめずらしく、これからの活動しだいで九州ならではのサッカー文化、スポーツ文化を創るきっかけとなるかもしれないと考えています。

Jリーグは「百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ」をスローガンに掲げ、地域に根差したスポーツクラブを中心に、誰もが気軽にスポーツが楽しめる環境を整え、サッカーに限らず、スポーツを通して世代を超えた触れ合いの場を広げることを目指しています。

いつの日か、九州にもそんな素敵な場所がたくさんできて、緑の芝生の上でスポーツが与えてくれる喜びや豊かさを九州の各地で感じられたら幸せだと思います。

これからの一年一年を、百年構想を叶えるための百分の一年として積み重ねていけるように、九州JHTの6つのホームタウンは「おかげさまで、もっと、元気な九州へ」をテーマに歩み続けます。

九州JHTの概要

◇ 名 称

九州Jリーグホームタウン連携会議（九州JHT）

◇ 目 的

九州地域におけるJリーグのホームタウンである自治体が連携を図り、九州地域の活性化に寄与すること。

◇ 理 念

九州JHTの理念は「おかげさま」

九州の6つのホームタウンが情報を共有し、クラブ、サポーター、企業などと連携した取組を行なうことで、地域をもっと元気にしたい。サポーター同士が触れ合う機会をもっとみんなに楽しんでもらい、笑顔が広がり、地域や世代を超えたつながりを拓きたい。そしてもっと、自分のまちを、チームを、九州を好きになってもらいたい。この取組は、一人、一企業、一ホームタウンではできない取組です。

「おかげさま」を通して、相手を敬い、地域を愛し、みんなの笑顔で地域（九州）を元気にしたいという想いを込めています。

◇ 組 織

九州Jリーグホームタウン連携会議メンバー（平成27年）

【会 長・事務局】鳥栖市 教育委員会 スポーツ振興課長

【副会長】熊本市 観光文化交流局 スポーツ振興課長

【幹 事】福岡市 市民局 スポーツ推進部 スポーツ事業課長（バトルオブ九州スタンプラリー）

大分市 企画部 文化国際課長（九州6クラブ観戦ガイド）

北九州市 市民文化スポーツ局 スポーツ振興課長（九州Jクラブ順位予想）

諫早市 政策振興部 スポーツ振興課長

九州Jリーグホームタウン連携会議作業部会メンバー（平成27年）

（連携会議で行う事項を具体的に検討し、実行するために設置）

* 福岡市 市民局 スポーツ推進部 スポーツ事業課事業係長

* 大分市 企画部 文化国際課 文化企画担当班参事補

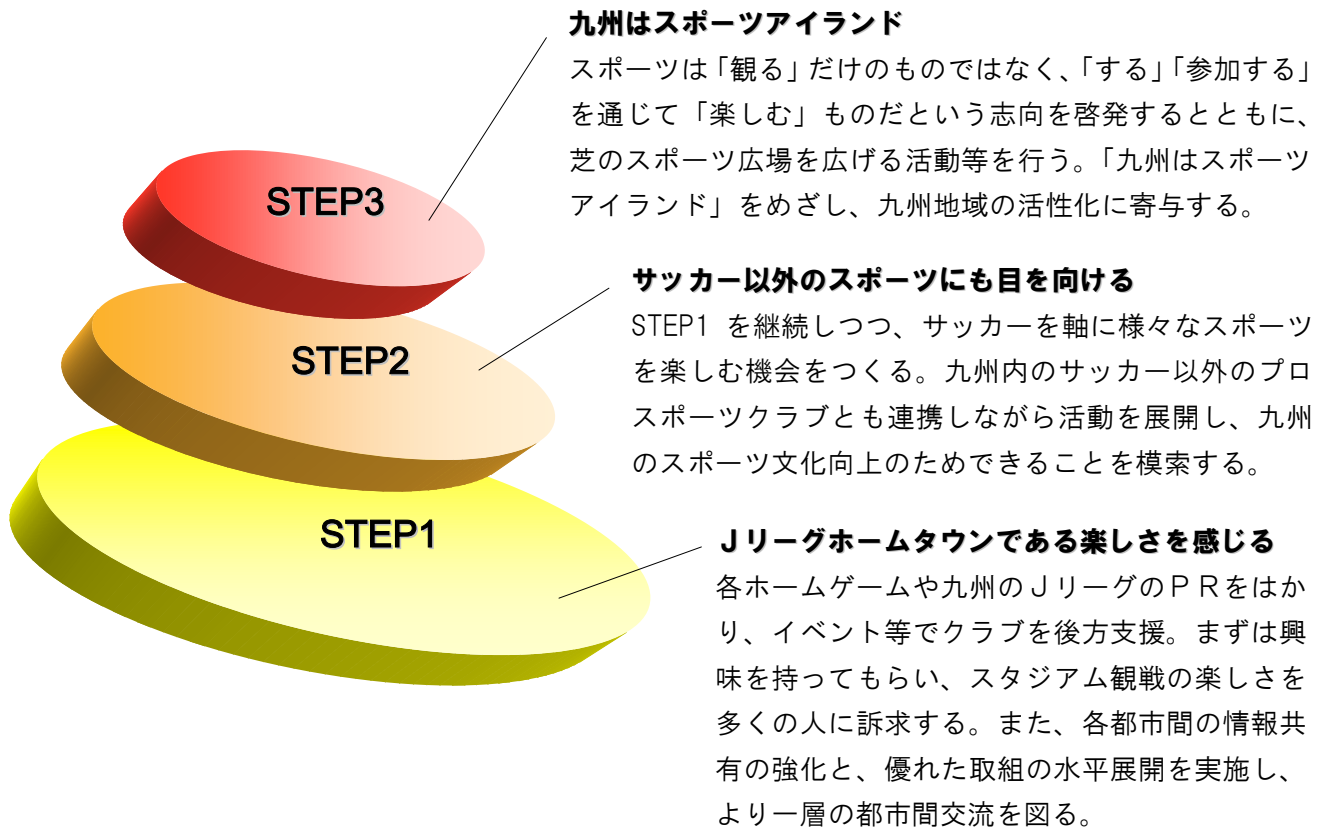
* 鳥栖市 教育委員会 スポーツ振興課スポーツ振興係長

* 熊本市 観光文化交流局 スポーツ振興課主査

* 北九州市 市民文化スポーツ局 スポーツ振興課企画係長

* 諫早市 政策振興部 スポーツ振興課主任

九州 JHT がめざす将来の姿



活動展開

九州のJリーグのPR

- 【取組 1】メディア等での広報活動
- 【取組 2】各都市のイベント会場でのPR
- 【取組 3】各種公共施設等との連携事業

九州のJリーグの試合を楽しむ

- 【取組 1】バトルオブ九州スタンプラリー
- 【取組 2】九州6クラブ観戦ガイドの作製・配布
- 【取組 3】九州Jクラブ順位予想だJ!
- 【取組 4】バトルオブ九州優勝クラブ表彰

九州Jリーグの試合に行く

- 【取組 1】九州JHTブースの設置
- 【取組 2】スタジアムでの周辺イベントの実施
- 【取組 3】九州だJ! 連携強化事業

連携を強化し新たな展開へ

- 【取組 1】各都市間の情報共有・連携強化
- 【取組 2】Jクラブとの意見交換・連携強化

2015年活動内容

2014 シーズンに引き続き6都市でむかえる 2015 シーズンも「おかげさまで、もっと、元気な九州へ」のテーマのもと、2014 シーズンの主な取り組みを継続するとともに、話題性や時事性にも視点を置いた新規の取り組みを加えながら活動を展開します。

◇九州JリーグのPR

【取組1】メディア等での広報活動

ホームタウンや九州のJクラブチームを知っていただくために、ホームページ、各都市の広報紙、テレビ・新聞等で、九州JHTの取り組みや九州のJリーグ全般をPRする。



【取組2】各都市のイベント会場でのPR

各都市で行われるイベントに合わせて、6クラブのマスコット等が集結し、来場者に対して九州のJリーグや九州JHTの取り組みをPRする。



【取組3】各種公共施設等との連携事業

「図書館からスタジアムへ」「スタジアムから図書館へ」をキーワードに、全国の公立図書館有志が「図書館海援隊サッカー部」として、地元クラブに関する常設展示や対戦にちなんだ特設展示を行っている。

九州JHTも図書館やクラブと連携してこの活動に協力し、図書館という全都市に共通する文化施設を活用して、新たなファンの獲得をねらう。

また、図書館利用者の増加も期待することができ、取組そのものの話題性も相まった、地域への波及効果をねらう。

◇基本的取組

各都市の県立、市立図書館等の公共施設に、ホームクラブに関する常設展示を行うことで、選手情報の発信や試合告知を行う。

また、クラブの協力を得て、フラッグやグッズ等の展示を行い、チームにちなんだ本や、選手がすすめる本の紹介等を行う。

◇2都市連携取組

対戦にちなんで、「バトルオブ九州図書館編」(仮称)を展開。2クラブや2都市に関する書籍、グッズ等の展示を行い、図書館でバトルオブ九州の事前告知を行う。

◇6都市連携取組

公共施設等と協力し、九州JリーグのPR活動に取り組む。

2013年8月20日 北九州市立中央図書館と熊本県菊陽町図書館との交換展示事例
(熊本での九州ダービー)



北九州市中央図書館



熊本県菊陽町図書館

◇九州Jリーグの試合に行く

【取組1】九州JHTブースの設置

ゲーム後に観光地等を巡っていただくために、九州対決が行われているスタジアムで、各都市の観光情報などを発信する。

また、バトルオブ九州スタンプラリーや九州Jクラブ順位予想だJ!の応募場所としても機能する。



【取組2】スタジアムでの周辺イベントの実施

九州JHTならではの都市間交流活動として、スタジアムやその周辺で各都市の伝統芸能や物産展等を展開。

スタジアムに賑やかさを創出し、ホーム、アウェー両サポーターに向けた来場動機づくりと再来場意欲の向上を図る。

2都市間の取組として継続して展開し、6都市連携事業としての開催も検討する。

【取組 3】九州だ J ! 連携強化事業

この取り組みは、九州 J クラブの合同イベントとして話題性が高く、スタジアムグルメ等を同時に展開することで来場者数の増加や話題性の喚起が期待できる。

2015 年も、九州 J H T は九州だ J ! 活性化協議会に積極的に協力をを行い、九州だ J ! フェスタをはじめとする様々な取り組みを通して、九州の J リーグ全体への関心度の向上を図る。



◇九州 J リーグの試合を楽しむ

【取組 1】バトルオブ九州スタンプラリー

バトルオブ九州に合わせ、各スタジアムを巡るスタンプラリーを実施し、抽選で各都市の特産品を贈呈する。2015 シーズンはディビジョンの違いはあるものの、6 都市で実施し、アウェイゲーム観戦の楽しさに花を添える。



【取組 2】九州 6 クラブ観戦ガイドの作製・配布

九州 6 クラブの情報及び 6 都市の観光 P R 情報等を盛り込んだ観戦ガイドを作製し、九州対決を盛り上げるため、バトルオブ九州スタンプラリーと同時に配布を行い、クラブと各都市のことをもっと知ってもらおうと共に、各シーズンの記念となるような観戦ガイドの作製を行う。

【取組 3】九州 J クラブ順位予想だ J !

バトルオブ九州を盛り上げる取り組みとして、リーグ戦の成績に基づきバトルオブ九州における順位予想クイズを実施する。J 1 と J 2 の両方を予想した中者には抽選で各都市の特産品等を贈呈する。

【取組 4】 バトルオブ九州優勝クラブ表彰

九州JHTからバトルオブ九州優勝クラブに対する表彰を行う。

シーズンを締めくくる、インパクトのある取り組みとして期待でき、バトルオブ九州に対する付加価値を高めることで、九州のJリーグに関する認知度の向上をはかる。

J1、J2で1つずつ優勝カップの贈呈を行う。(J1は鳥栖のみのため、J2優勝クラブへの贈呈となる)



◇連携強化

【取組 1】 各都市間の情報共有・連携強化

各都市のホームタウンとしての先進的、効果的取り組みに関する情報共有を強化し、実際のノウハウも含めて他都市へ提供、展開していく。

2市長による試合時のキックインや、スタジアムビジョンでの応援メッセージ等を展開し、6市長による座談会等の開催を目指す。

優れた取り組みが各都市へ広がることで、九州Jリーグ全体の活性化に寄与する。

【取組 2】 Jクラブとの意見交換・連携強化

九州6クラブによる「九州だJ！」活性化協議会(2015 事務局：サガン鳥栖)との連携を一層強化し、九州だJ！フェスタなど共同事業などを実施する。

また、イベント事業に限らず積極的な意見交換を行い九州全体の活性化につなげていく。